

オープンキャンパスのご案内

山大音研では来たる8月6日の午後1時から4時まで、教育学部音楽棟にてオープンキャンパスを開催します。予定している内容は次のとおりです。

◎カリキュラム説明

山大音研は、小学校や中学校や高校で音楽を専門に教える教師を育成しています。

オープンキャンパスでは、大学4年間で習得することを、大学での授業の様子を映像で見ながら詳しく説明し、みなさんが疑問に思っていることにわかりやすくお答えします。



・教育実習にて

たとえば……

- ・音楽教師に必要とされる基礎基本はどのようにして身につけるのか。
- ・教育実習（＝初めての教師体験）に向けてどのような学習をするのか。
- ・教員として身につけるべき、指導実践における専門性はどのように磨かれるのか。
- ・ここ数年の卒業後の進路はどうなっているのか。

——などなど

◎公開レッスン（ピアノ・音楽学）

山大音研では、学生の音楽的専門性をより高度なものにするために、実技レッスンや音楽学の講義にも力を入れています。オープンキャンパスでは、公開レッスンとして、ふだんどのようなレッスンや講義をおこなっているかを見ていただけます。公開レッスンのあとには演奏の発表もあります。



「楽譜を読む」ということ、これは単に、音、リズム、強弱、アーティキュレーションなど、譜面上に書かれてあることを見逃さずに読み取るだけではありません。そこから作曲者が何を伝えたいのか、或いは何を感じ取ってほしいのかということを読み取るのが重要で、それを音で表現していくことが「演奏」につながります。

公開レッスンでは、シューベルトの即興曲を採り上げます。シューベルトは古典派の形式の伝統を受け継ぎながら、絶妙な調設計においてロマン派の音楽世界へ導きましたが、性格的小品と呼ばれる「即興曲」や「楽興の時」等、個人的な気分や情景を想起させる自由な形式の小品も生み出しました。それらを踏まえた演奏表現につなげるために、柔軟な手首・腕など身体の使い方は勿論のこと、息遣いにも注意を払い、もう一度基礎を見つめ直すことが大切です。その上で、奏でた音を身体で聴く——こうした地道な努力が不可欠なのです。（文責：友清祐子）

現代音楽という音楽のジャンルを知っていますか？ 動画サイトで「現代音楽」を検索してみてください。でもいいので聞いてみてください。

どうですか？

「ワケわからない」「これが音楽？」「なんかテキトー」……いろいろな声が聞こえてきそうです。

どのような現代音楽を聞いたかはわかりませんが、少なくとも、これまでみなさんが「音楽」と呼んでいたものとは異質な音が耳に飛び込んできたのではないのでしょうか？

聴衆の不在。

この言葉は現代音楽の現状を言い表したものです。つまり、「誰も聴く人がいない」ということです。実際、現代音楽といわれる音楽は「マニア」や「おたく」と呼ばれる一部の人たちしか関心を寄せていないのが現状のようです。

じつは、現代音楽は新しい音楽を創り出す試みです。「ワケわからない」のは当然、「これが音楽？」と言われるのも当然。だって、これまで「音楽」と呼んでいたものとは別なものを創ろうとしているのですから。

しかし、現代音楽のなかには、それまでの音楽と人間の関係を覆すような作品があります。模擬授業ではその作品を鑑賞しつつ、どのようなインパクトがあったのかについてお話ししたいと思います。(文責：斎藤完)



◎演奏発表

二重唱、ピアノ独奏、ピアノ連弾、管楽三重奏

◎合唱体験

変声期（特に男子！）は急に声が低くなる中学生の時期に訪れると捉えられがちですが、実は小学校高学年で第一段階が始まるケースが多く見られ、大学生くらいの年齢で安定します。したがって、大学では、小・中・高校とはひと味違った合唱の響きを体験することができます。さあ、あなたも一緒に合唱を体験しませんか。

◎座談会

少人数のグループに分かれて、在学生とのフリートークを予定しています。打ち解けた雰囲気の中で、学習環境や入試への準備、あるいは大学生活の様子など、どんな質問にもお答えします。



みなさんのお越しをお待ちしています！

お問い合わせは下記メールアドレス（斎藤）までお願いいたします。

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

「山大音研」で検索すると、当教室のHPをご覧ください。

なお、悪天候などによるオープンキャンパス中止や延期に関する情報は大学HPをごらんください。